

3期プラン	発言要旨	委員	提言書
施策1 成長分野の競争力強化中核企業の創出・育成	航空機や自動車については、航空機、県内企業がどの部分を製造しているのか、見える化して示すことによって興味を示す若者が増えるのではないか。	阿部委員	1-1 (1)
	風力発電について、県外の大手企業が参入しているが、県内への経済波及効果を広げる取組が必要である。	喜藤部会長	1-1 (2)
	風力発電設備等に用いる特殊な素材のメンテナンスについて県で取り組んでいたと思うが、今後、風力発電設備の導入量が拡大する中で重要となるので、継続して実施するべきである。	眞田委員	1-1 (2)
	高齢化社会の中で、介護福祉機器について、加速化して取組を進めるべきである。その中で、ICTの活用を併せて展開することが重要である。	眞田委員	1-1 (3)
イノベーションの推進	ICTと聞いただけで一步引いてしまう人・企業もいる。ICTを活用しなさいと言うのではなく、こうすれば、このように良くなるといった、分かりやすい説明をすることから普及を図るべきではないか。	阿部委員	2-1
	IoTに関して、使う側がどういった使い方が有効なのか理解することが重要である。	沓澤委員	2-1
	第4次産業革命の進展ということで、あらゆる産業にIoTやAIの導入促進を図るということだが、実際に進めていくうえで、県内にその分野において推進力のある人、技術的に指導できる人がいることが需要である。	喜藤部会長	2-2
	産業用ロボットの活用について、起業で産業用ロボットを活用するためには、携わる社員に「産業用ロボット安全特別教育講習」受講が義務付けられているが、県内で講習を開くことができるインストラクターがおらず、講習を受けることができない。インストラクターの教育を進めていただきたい。	沓澤委員	2-1
	世の中が、ICT、IoT、AIというキーワードで進んでいる中で、秋田県内の中小企業がどう生き残るかを考えなくてはならない。大手メーカーを含め、製造業に関わっている経営者、執行部はそのキーワードを前にしてどう進めばいいか考えていると思う。県内企業が開発しても、大手メーカーが買い取ってしまうということも過去にはあった。その中で残っているところは、コアな技術、知財を持っているところである。特にICTの分野については、知財についてどう獲得していくのが重要である。	眞田委員	2-2
	ICT分野は、特に、世界的な動き、全国の動きを把握、情報収集しながら進めなければならない。	眞田委員	2-2
施策2 中小企業。小規模企業者の活性化と生産性向上	起業に関して、高齢者にもアイデアを持つ人が多い。高齢者に対する起業支援があっても良いのではないか。	眞田委員	3-2
	起業してその後うまくいくためには、上に立つ人間が夢を語って社員を引っ張っていかなければならない。起業に関して重要なのはテクニカルなことばかりではない。	喜藤部会長	3-2
	観光の分野では、2020東京オリンピックに向けた取組が行われているが、産業振興の部分での取組も考えた方が良い。	眞田委員	3-1
	起業に関して、女性や学生、若者が頼るところは行政であるが、行政に批判されたはずの案件が、行政サイドの取組をなっていたこともある。行政の知財に関する意識が起業に関するやる気を阻害している一因となっていることもある。	阿部委員	3-2

3期プラン	発言要旨	委員	提言書
	起業について、プログラマーや技術者でなくても、プランニング力や企画力があれば起業することができる。そのような能力を教育できれば良い。	眞田委員	3-2
	単に起業・創業することが良いということではなく、その後、生活をキープすることが必要。キープすることまで踏まえた起業家人材の育成が必要である。	眞田委員	3-2
	起業支援について、起業するためには、資金面も重要であるが、一番重要なのは、起業家意識をきちんと持つ事である。	阿部委員	3-2
	県産食材の売り込みについて、外国や他県の類似品の参入を阻むためにも、産地や製法の基準をしっかりと定め、ブランド化を進めるべきではないか。	眞田委員	他部会へ
	Aターン就職者の3年後、5年後の定着状況を調査し、離職、離県した要因を分析することが重要である。	阿部委員	他部会へ
施策3 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進	企業の海外展開については、事前に現地の情報をどの位得られるのが重要。	沓澤委員	4-1
施策4 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備	企業の生産性向上と言う意味でも、健康経営を促進するべきである。	沓澤委員	5-1
	外国人労働者の受け入れは、秋田県にとってチャンスである。全国にさきがけ、しっかりと受け入れる環境整備を進めるべきである。	喜藤部会長	5-1